

守りたい人々を癒す路地裏、横丁の飲食空間



コロナ禍 飲食店が客席を一つ置きに減らすと、収容人数は半減する。各自治体が要請する営業時間の短縮。周囲の会社などは従業員同士の飲酒やグループ利用を禁止する。このままでは夜型の飲食店は、半分以上潰れてもおかしくない。

一方で、今年 4 月以降、東京の都心や副都心で、横丁や路地をテーマにした飲食ゾーンが続けて開業、人を集めている。「虎ノ門横丁」、「渋谷横丁」、「日比谷 OKUROJI」など、市街地再開発で、超近代的なビル街に変わった地域・地区や建物内に。客同士肩が触れ合う、店主の顔が見えるような飲食空間が人々を吸い寄せている。

観光地はどうかのだろう。先日訪れた北海道小樽では、素敵に整備・維持された飲食ゾーンに出会った。午後8時には人の気配が無くなる中心部のアーケード街だったが



サンモール一番街側入口

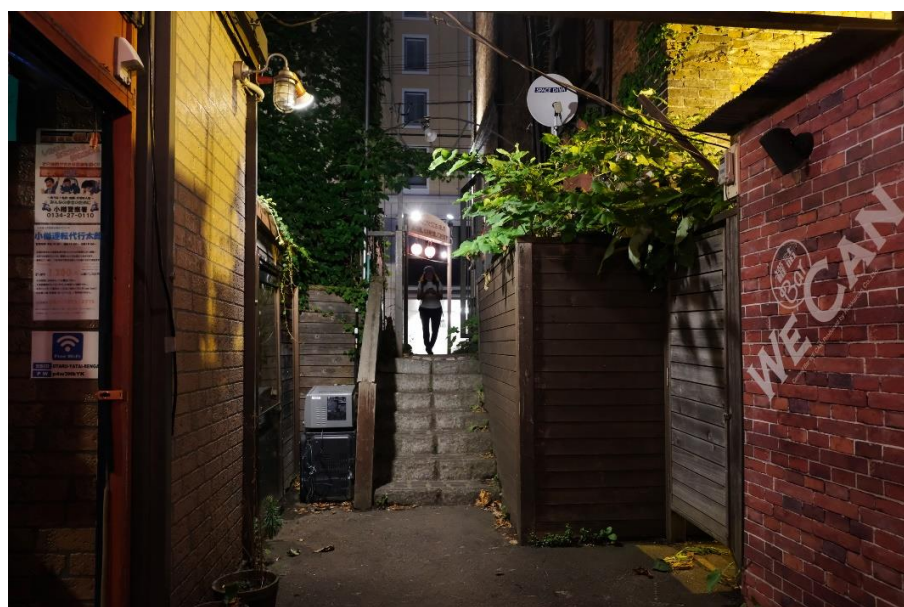
その一角だけは別だった。かつての呉服店の倉庫跡、レンガづくりの建物や蔦の繁る外壁を背景に、中庭席を囲むように数個のテナ店舗が並んだ現代風路地裏空間「おたる屋台村レンガ横丁」。

風通しや、消毒液を置く感染症対策がなされ。まちなかのインフラのように機能していた。地域や利用者で守り通したい路地裏、横丁空間である。

舞台セットのような空間演出が効果的。



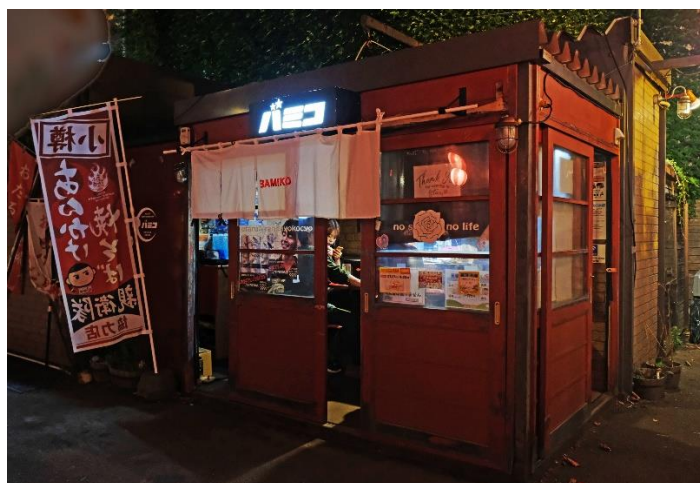
レンガと蔦の壁がライトアップされている



日銀通りにつながる小路



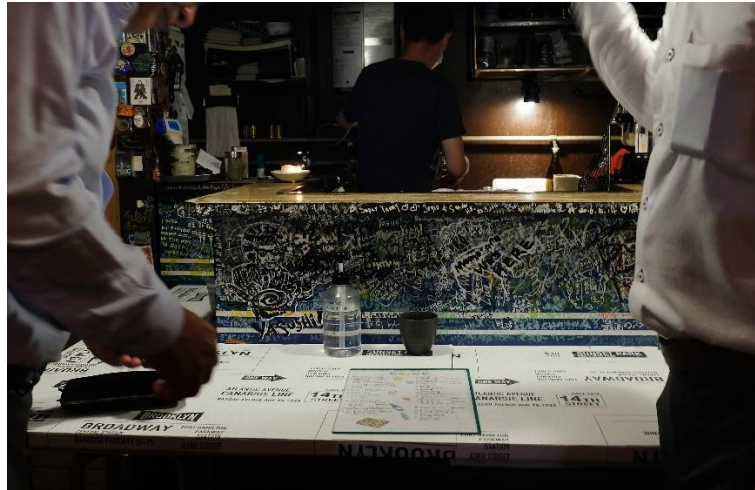
グループやカップルが訪れる中庭開放空間



コンテナ(風?)建物のカウンター店舗



珍しい缶詰バー



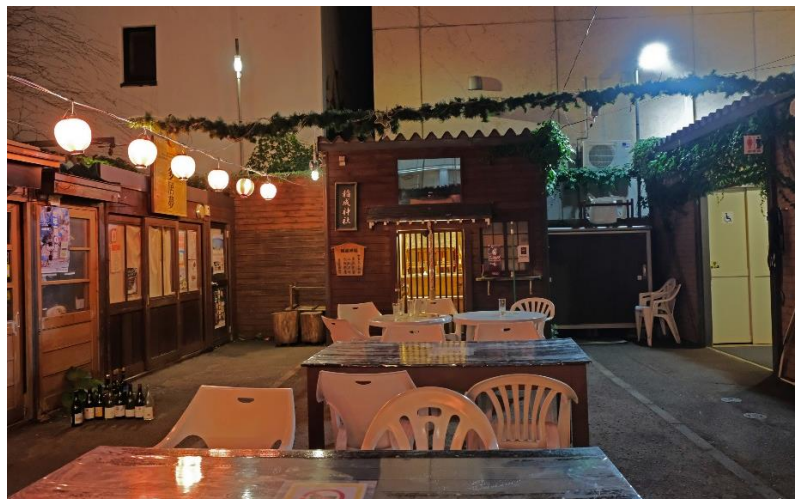
炭焼き店の落書きカウンター



目を惹くサイン・ネーミング



おたる屋台村案内マップ



イベントスペース(正面は神棚)